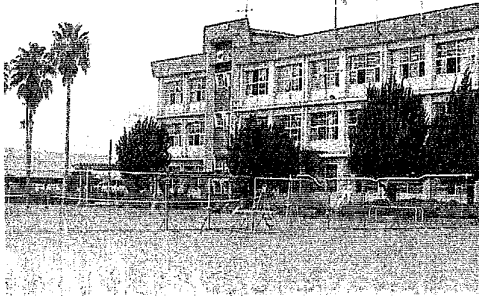


ルポルタージュ 研究実践



国際的な視野に立ち，向学の意気
と心豊かな人間性にあふれ，
心身ともにたくましい生徒を育成する。

国分市立国分南中学校

はじめに

新学習指導要領においては，児童生徒に「基礎・基本」を確実に身に付けさせることをねらいとして，各教科等でその内容の厳選をしている。このことは，学ぶ側の児童生徒にも教える側の教師にも時間的・精神的な「ゆとり」を与える。そして，観察・実験，調査研究，発表・討論など，時間を要する体験的・問題解決的な学習によりいっそう取り組むことができるようになる。

また，今日盛んに地域に根ざした特色ある学校作りが叫ばれている中，児童生徒の身近にある素材に目を向け，郷土の学習を進めることは特色ある学校づくりの要の一つである。そしてこのことが児童生徒の興味・関心を引き出し，「基礎・基本」の確実な定着を図ることにもつながっていく。

このような観点から，郷土の学習を学校の大きな特色に位置づけ，生徒のやる気を引き出しながら学力の定着を図っているのが，今回取材した国分市立国分南中学校である。

1 学校について

国分南中学校は，近くに山，海など豊かな自然をもちながら，一方では企業誘致などが進み，市街化が進んでいる国分市の南東部に位置する学校である。現在，20学級の大規模校であるが，生徒会活動を充実させながら，生徒と教職員が一丸となった教育活動への取組の下，生徒はとても落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。

2 郷土学習の実践

校区には，今から約9500年前の日本最大そして最古級の定住集落跡，上野原遺跡がある。この遺跡はこれまでの歴史の常識を覆す大きな発見でもあり，全国的に注目され，多くの見学者たちが訪れるようになった。そこで，このような素晴らしい環境を歴史教育・郷土学習に生かした学習が始まった。そして，平成11年度から社会科選択の時間に，

生徒に自分の住む地域に誇りをもたせ、郷土を愛する心を育てることや歴史に対する興味や関心を高めることを主なねらいとした授業を展開してきている。

(1) 郷土素材の教材化

目 標

身近な地域の歴史や具体的事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的な事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

内 容

日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる。

(学習指導要領より)

教師のフィールドワークを通して素材の分析、資料収集を行い、教材化への取捨選択を行った。

上野原遺跡

ア 単元名を決める。

「説明ガイドのボランティアをしよう。」

イ この単元のめあてを決める。

- ・郷土を大切にすることを養う。
- ・自分を表現できるようにする。
- ・子どもたちの意欲や関心を高める。
- ・将来の夢や希望をもたせる。



たて穴式住居復元

ウ 主な学習内容を決める。

- ・見学、調査や体験的な学習にする。
- ・観察や調査などの過程と結果を整理し、報告書にまとめる。
- ・ボランティアガイドをする。

エ 基礎的な事項や事柄の精選をする。

- ・縄文時代、たて穴式住居、石器（石斧、やじり、磨石）、土器など

オ 主な学習活動計画を立てる。(全35時間)

- (ア) オリエンテーションによりこの学習のあらましを知る。
- (イ) 遺跡の発掘現場に行き、疑問に思うことや調べたいことを探る。
- (ウ) 自分の学習のテーマを立て、学習計画を作る。
- (エ) 専門家から学ぶ。(ボランティアガイドの仕事)
- (オ) 自分のテーマに即して情報や資料を収集する。
- (カ) 情報を整理・分析し、分かったことや解決できたことをまとめる。

(2) 主な授業実践

ア オリエンテーション

古代の土の層から土器を発見する感動を体験させるために、国分高校内にある発掘現場に子どもたちを連れて行っている。そこで発掘の調査員の話聞いた後に実際に移植用のスコップを用いて、地面を掘らせている。

「先生，見付けた，見付けた。」「私のも土器なのかな。」「これどれくらい昔の土器なの。」「すごい，古墳時代の人触った土器を今私が持っている。」などの声が上がリ，宝物を発見したかのように真剣な表情をしていた。このような体験を通して，発掘に対する地道さと情熱が上野原遺跡の発見につながったことを実感するとともに，歴史に対する興味・関心を高める学習を行っている。

イ 現地での学習発表会

自分が調べたことやまとめたことを実際にガイドとして見学に来た人に説明するための発表会を行っていた。はじめは自信なく，発表していたが，このことが話題になった新聞や報道の様子（以前の取組）を伝えると，「自分たちが今から取組もうとしていることはすごいことなんだ。しっかり勉強してガイドを努めないとはずかしいぞ。」という気持ちになったようであった。その後は，メモやパンフレットを使い，真剣に発表している様子が伺えた。



ボランティアガイドの様子

ウ ボランティアガイド

選択の時間の学習の成果を発表するのが授業外の夏休みに行われるボランティアガイドである。二人ずつの3グループでガイドを担当し，1日に何回も休む暇もないほどに案内することもあった。「最初は緊張してなかなかうまく説明できなかったけど，だんだん楽しくなってきた。」「僕はあまり勉強していなかったが，見学者の人がちゃんと聞いてくれたのでうれしかった。」などの声が聞かれるようになり，見学者が来たら，当番以外でもガイドに出ていった。中には内容を工夫して相手を喜ばせるようなガイドをしたり，外国人の見学者に英語を使って説明したりする生徒まで見られ，学習の広がりを感じさせられた。

おわりに

地域の素材の教材化を図りながら，教科学習を行うことは「基礎・基本の定着を図る」観点からも大切なことである。また，そのことは，郷土の自然，歴史，文化・伝統等について理解を深めるばかりでなく，郷土に対する愛情や誇りをもたせることにもつながる。

国分南中学校では，今後この活動を発展させ，他の教科でも違った角度から教材化を図ろうとしている。子どもたちが素直で，その眼差しが生き生きとしているのは，このような学校の特色ある教育活動からくるものではないだろうか。

（教育経営研修室 研究主事 谷口 幸一郎）